

令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金事業 評価シート

●目次

【地方創生推進タイプ】

(1) イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現 (徳島東部地域の市町村との共同計画)	 1
(2) 「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業 (市の単独事業)	 2
(3) 伝統文化と公民連携で推進！SDGs未来都市とくしま実現事業 (市の単独事業)	 4
(4) 2つのX(GX・DX)とイノベーション創出による徳島経済飛躍事業 (県との共同計画)	 6
(5) 3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム (県等との共同計画)	 7
(6) 「グリーン社会とくしま」の実現による持続可能な地域づくり推進事業 (県等との共同計画)	 8
(7) 社会・経済状況の変化に適応する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略 (県等との共同計画)	 9

【デジタル実装タイプ】

(8) LINEによる行政サービス拡張事業	10
(9) スマート農業推進支援事業	11
(10) 「書かない窓口」申請書作成サービス	12

イーストとくしまDMOニューツーリズム推進による新たな事業創出による地域活性化の実現【地方創生推進タイプ】

事業概要
イーストとくしまDMOが、「ニューツーリズムの推進」や「シビックプライドの醸成」等に取り組み、「訪れてよし」「住んでよし」の観光地域づくりを推進する。 ・15市町村から成る徳島東部圏域が、官民が一体となり戦略的に取り組む仕組みを構築する ・観光コンテンツを魅力あるビジネスに成長させ、旅行者等による交流人口の拡大を図る ・観光地域づくりを推進し、圏域経済を好循環させ、持続可能な地域にする

事業計画期間	令和3年度～令和7年度
R6交付対象事業費	12,800千円
R6交付額	6,400千円
総合戦略の基本目標	基本目標2

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R3	R4	R5	R6	R7	KPIの達成状況・要因分析
徳島市の宿泊者数(万人) 【にぎわい交流課】 ※令和6年以降の目標値は、総合計画2025で定めた令和11年の目標値	67.6 R1	42.3 (80)	44.8 (80)	60.7 (80)	64.9 (78)	(78)	観光需要が回復傾向にあり、観光客は増加しており、延べ宿泊者数も徐々に伸びてきている。年間を通して本市の魅力発信に積極的に努めた。
観光コンテンツ造成数(件) 【にぎわい交流課】 ※令和7年度は支援数を含む	3 R2見込み	2 (3)	7 (12)	9 (12)	14 (12)	(16)	万博の前年度となる令和6年度は、サイクリング、歴史スポット廻り、茶・華・書などの文化体験、周遊船演劇プログラム導入といった徳島に来たいと思う、コンテンツを中心に造成に努めた。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

構成事業一覧

No.	事業名	事業概要	事業目標					R6具体的な取組内容
			R3	R4	R5	R6	R7	R6事業目標の達成状況及び要因、今後の方向性
1	徳島東部DMOの運営 【にぎわい交流課】	自然や伝統文化を生かした新たな観光コンテンツの造成や支援、並びに徳島の魅力を磨き上げたツアー情報の発信など、地域への誇りと愛着を醸成する「観光地域づくり」の推進を行う。	観光コンテンツの造成数 ※令和7年度は支援数を含む					2025大阪関西万博の絶好の機会を活用して、徳島の認知度向上による誘客促進を図るため、万博の前年度となる令和6年度は、サイクリング、歴史スポット廻り、茶・華・書などの文化体験、周遊船演劇プログラム導入といった徳島に来たいと思う、コンテンツを中心に造成に努めた。
			2 (3)	7 (12)	9 (12)	14 (12)	(16)	令和6年度は、これまで造成してきたコンテンツの情報発信に加え、歴史・文化・自然などに焦点をあて、新たなコンテンツ造成を行ったが、令和7年度以降は、万博開催の機会を活用した誘客促進や国際定期便運航にあわせ、東アジアを中心とする外国人旅行者に対して、プロモーションを積極的に推進する。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

「しごと」を担い、まちを元気にする「地域活性化人材」創出事業【地方創生推進タイプ】

事業概要
就業・創業促進に取り組むとともに、移住促進をはじめとした施策間連携による取組の促進により、地域の「しごと」を担う人材の創出・確保や、多様な人材の交流促進と活躍による地域経済の活性化・まちの活力向上を目指す。 ・移住施策の推進等により地域外人材を呼び込むことにより、人材を確保する ・市民協働施策等を活用しながら、より実践的な人材育成の取組を展開することで、人材のミスマッチを解消する ・多種多様な人材の創出・確保・活躍を推進する

事業計画期間	令和4年度～令和8年度
R6交付対象事業費	13,675千円
R6交付額	6,837千円
総合戦略の基本目標	基本目標2・6

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R4	R5	R6	R7	R8	KPIの達成状況・要因分析
本事業を通じた、徳島市内における新規就業・創業者数(人)【経済政策課】	0	25 (15)	23 (20)	37 (25)	(30)	(35)	創業者に対する支援は、23件と昨年度より増加しており、積極的な広報活動の成果が出ていると思われる。 女性・若者活躍推進支援事業では、当該セミナーのカリキュラムの充実やハローワークとの共催による就職面接会の開催により、14人が新規就業することができ、目標値を達成することができた。
本事業を通じた、徳島市への移住者数及び徳島市の関係人口数(人)【企画政策課】	3	15 (15)	21 (20)	35 (25)	(30)	(35)	移住相談では、窓口での相談経験の蓄積により、徳島市の住みやすさや生活環境を具体的に伝えることができ、県内市町村の中で徳島市への移住を選択することにつながっている。
本事業を通じ、新たな事業やコミュニティビジネスを実施した人数(人)【市民協働課】	0	8 (3)	5 (5)	7 (7)	(15)	(20)	これまでの取組の成果を一過性のものにせず、支援対象として継続的にサポートしていくことで、新たな人材を巻き込むことにも繋がり、目標値を達成することができている。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

構成事業一覧

No.	事業名	事業概要	事業目標					R6具体的な取組内容
			R4	R5	R6	R7	R8	R6事業目標の達成状況及び要因、今後の方向性
1	移住支援策の推進① (移住促進・移住交流支援センター) 【企画政策課】	移住交流支援センターにおいて、事前相談から移住後の支援まできめ細やかに対応するとともに、移住サイトや各種SNS等での情報発信、本市に訪れて移住後の暮らしを具体的に想像できる機会を提供し、移住を促進する。	移住相談件数(件)					移住フェアへの参加数の増加や公式LINEからの相談可能な広報、移住体験ツアーやふるさとワーキングホリデー開催の情報発信を積極的に行った。
			254 (一)	208 (一)	272 (一)	(230)	(240)	移住フェアへの参加(10回)を実施し、SNSや移住交流サイト等でも徳島市の魅力発信を行ったほか、ふるさとワーキングホリデーでは募集人数以上の応募があるなど、相談件数の増加につながっている。

2	移住支援策の推進② （移住支援金の支給） 【企画政策課】	東京圏からの移住やU・Iターン就職を促進するため、県内企業への就職や起業等を行う移住者に移住支援金を支給し、大学生には県内企業等への就職活動に要する交通費等を助成する。また、新たに大阪圏も支給対象に拡充し、大学生に対しては就職応援金を支給する。	移住支援金・地方就職支援金の支給件数(件)					東京圏からの移住相談者に対し、移住支援金の案内を行うことや、公式LINEの移住支援金診断ツールの利用案内を行った。
			8 (一)	9 (一)	11 (一)	(18)	(21)	コロナ禍でテレワークが東京圏で増加したことにより、テレワークにより移住した人の申請が増加している。令和7年度からは大阪圏への支給拡大により支給件数の増加が見込まれる。
3	阿波おどり「絆」強化事業 【にぎわい交流課】	2025大阪・関西万博やワールドマスタースゲームズ2027関西などによるインバウンド需要を見据え、全国の阿波おどり公式アンバサダーと連携し、企画展の開催やSNS等での情報発信を行い、阿波おどりの魅力を国内外に広く発信する。	阿波おどり公式アンバサダー登録者数(人)					阿波おどり公式アンバサダーと連携し、阿波おどり写真展の開催やSNSでの発信などを行い、阿波おどりの魅力発信を積極的に取り組んだ。
			一 (一)	355 (一)	415 (400)	(430)	(460)	公式アンバサダーと連携し、阿波おどりの魅力を積極的に発信することで、魅力発信を行うアンバサダー数が増加するとともに、公式Instagramのフォロワー数は大幅に増加した。公式アンバサダーとの継続的な協力体制を構築し、企画展などの活躍の場を提供することでコアなファンの増加を目指す。
4	共創のまちづくり推進 【市民協働課】	まちづくり協働プラザをオープンイノベーションの場として活用し、公・民・学が連携して社会課題を解決する新たな事業を共創するとともに、まちづくりに参画する人材の育成を図る。	本事業を通じ、新たな事業やコミュニティビジネスを実施した人数(人)					本事業をきっかけに生まれた任意団体の活動支援を継続的に実施。また、共創の場であるまちづくり協働プラザは、独自の取組である「阿波おどりエコアクション」を市と連携し展開。
			8 (3)	5 (5)	7 (7)	(15)	(20)	これまでの取組を継続的に実施することで、目標値を達成することができた。今後は、今までに培ったノウハウを活かし、より効率的に人材育成を推進していけるよう取り組む。
5	創業促進事業 【経済政策課】	新たな需要や雇用の創出を促進するため、創業支援事業者等と連携し、相談会や専門家による伴走支援、補助金の交付をはじめとして、段階に応じた様々な取組を通じて、創業前の者や創業間もない者を支援する。また、創業後にフォローアップを行い事業の継続を支援するとともに、学校への出張講座などを行い、創業機運の醸成を図る。	「事業効果があった」と回答した事業者の割合(%)					新たな需要や雇用の創出を促進するため、創業支援事業者等と連携して、相談会やセミナー等を実施するとともに、創業に要する経費の補助を行った。
			一 (一)	一 (一)	81 (一)	(90)	(90)	今後も事業者への取組に対して支援を行うとともに、より事業効果が見込めるよう取り組む。
6	女性・若者活躍推進支援事業 【経済政策課】	出産・育児等のために離職した女性や40歳未満の男性の就労支援として、セミナーや他団体との連携による就職面接会の開催などを行う。	セミナー等参加者の就職者数(人)					女性や若者が再就職するに当たり、自らの仕事への適正や必要なスキルを身につけるための講座を16回にわたり実施し、19人が参加した。また、ハローワークとの共催による就職面接会を3回実施し、計16社の採用担当者、計80人の求職者が参加した。
			13 (一)	9 (一)	14 (一)	(10)	(10)	当該セミナーのカリキュラムを充実させたことや、効率的に就職セミナーの開催を行ったことに加え、本県の求人が一定以上あること等により、令和6年度の新規就業者数は14人となり昨年度に対し増加した。今後もより多くの就職につなげられるよう、カリキュラムの内容や実施方法を検討していく。
7	市高生次世代プロデュース事業 【徳島市立高等学校】	市高生による次世代の徳島市を担う人材を育成することを目的とした取組で、地元徳島のことをよく知ることにより地域創生への課題解決について学ぶとともに、外国人との交流を通じて国際理解を深める。	大学等との連携による地域創生講座や異文化交流事業の開催					徳島大学と連携し、ドイツ語・中国語の多言語ラボをそれぞれ3回実施、延べ100人の参加があった。また、徳島文理大学と連携し、多文化キャラバンを実施、15人の参加があった。
			実施 (一)	実施 (一)	実施 (一)	(実施)	(実施)	今後も次世代の徳島市を担う人材を育成するため、大学や企業などとの産学官連携や国際連携の体験を通じて、地域創生へ繋げる事業を継続していく。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

伝統文化と公民連携で推進！SDGs未来都市とくしま実現事業【地方創生推進タイプ】

事業概要
SDGsを推進する様々な取組と「阿波おどり」を組み合わせ、先駆的・実験的な取組を多様な主体と積極的に推進することで、経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらすモデル事業を生み出すとともに地域の活性化を図る。 ・ダイバーシティと民間活力を原動力とした様々な取組と「阿波おどり」を組み合わせSDGsを自分ごととして推進する地域を確立する。 ・先駆的・実験的な取組を、多様な主体と手を組み積極的に推進することで、経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらすモデル事業を生み出す。

事業計画期間	令和5年度～令和7年度
R6交付対象事業費	6,751千円
R6交付額	3,375千円
総合戦略の基本目標	基本目標2・6

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R5	R6	R7		KPIの達成状況・要因分析
地域の伝統文化の持続可能性に貢献する市民の数(人) 【にぎわい交流課】	160	197 (180)	455 (200)	(300)		2024阿波おどりでは多くのボランティアの方がエコアクション活動等に参加し、持続可能な祭りとなるよう取組への協力が得られた。
SDGs推進に係る公民連携事業等に協賛する企業・団体数 (社・団体)【にぎわい交流課】	11	14 (13)	18 (15)	(20)		2024阿波おどりでは、多くの企業・団体が阿波おどりに対し協賛し持続可能な祭りとなるよう協力が得られた。
経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらす公民連携モデル事業の実施数(件)【企画政策課】	0	1 (1)	1 (2)	(4)		当初予定していた「ひょうたん島周遊船の電動化事業」が、準備段階で想定していなかった事情により、事業実施時期を延長したため、経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらす先駆的な取組を増やすことができなかった。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

構成事業一覧

No.	事業名	事業概要	事業目標					R6具体的な取組内容
			R 5	R 6	R 7			R6事業目標の達成状況及び要因、今後の方向性
1	SDGs推進事業①（SDGsの普及啓発） 【企画政策課】	連携協定によるパートナーシップ（公民連携）を拡大するとともに、徳島市SDGs公民連携プラットフォームを通じて情報発信を積極的に行うことで、SDGsの普及啓発を図る。	①包括連携協定による連携事業数(事業)					令和6年度は新たに2社と包括連携協定を締結し、パートナーシップを拡大した。また、子どもを対象にしたSDGs体験イベントやアミコビルやボードウォークでの懸垂幕やフラッグの設置など、情報発信を積極的に行った。
			165 (120)	151 (150)	(170)			
			②経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらす 公民連携モデル事業の実施件数(件)					包括連携協定による連携事業数の目標は達成したものの、公民連携モデル事業の実施件数は、当初想定したひょうたん島周遊船の電動化事業が次年度に持ち越されたため目標達成できなかった。 引き続きパートナーシップによる連携事業を増やすとともに、ひょうたん島周遊船の電動化などの先駆的な取組を徳島市SDGs公民連携プラットフォームを通じて全国的にプロモーションすることで、さらなるSDGsの普及啓発に努める。
			1 (1)	1 (2)	(4)			
			③市民のSDGs認知度(%)					
66.4 (69)	69.5 (70)	(71)						

2	SDGs推進事業②（ひょうたん島周遊船の電動化） 【企画政策課】	ひょうたん島周遊船を電動化し、船舶分野における脱炭素化モデルを構築することで、「SDGs未来都市・徳島市」の取組を全国的にプロモーションするとともに、将来像「おどる街つながる笑顔水都とくしま」の実現に向けて、水辺の魅力アップを図る。	電動化した周遊船数(艇)					令和6年11月にひょうたん島周遊船の電動化に向けた試乗会を実施した。試乗会では市民のニーズを調査するためのアンケートを実施し、導入後の活用方法について検討するなど、次年度以降の準備を行った。
			— (一)	— (一)	(1)			令和7年度中にひょうたん島周遊船を電動化し、本格運航を実施予定である。イベントなどでPRを行い、多くの方に乗船してもらうことで、SDGsの普及啓発に努める。
3	阿波おどり「絆」強化事業 【にぎわい交流課】	2025大阪・関西万博やワールドマスターズゲームズ2027関西などによるインバウンド需要を見据え、全国の阿波おどり公式アンバサダーと連携し、企画展の開催やSNS等での情報発信を行い、阿波おどりの魅力を国内外に広く発信する。	阿波おどり公式アンバサダー登録者数(人)					阿波おどり公式アンバサダーと連携し、阿波おどり写真展の開催やSNSでの発信などを行い、阿波おどりの魅力発信を積極的に取り組んだ。
			355 (一)	415 (400)	(430)			阿波おどり公式アンバサダーと連携し、阿波おどりの魅力を積極的に発信することで、魅力発信を行うアンバサダー数が増加するとともに、公式インスタグラムのフォロワー数は大幅に増加した。阿波おどり公式アンバサダーとの継続的な協力体制を構築し、企画展などの活躍の場を提供することでコアなファンの増加を目指す。
4	阿波おどり文化継承事業 【にぎわい交流課】	阿波おどり有名連を小学校や中学校に派遣し、阿波おどりの歴史・文化、マナーを学ぶとともに、模範演技を見て、一緒に踊り、男踊り・女踊り・鳴り物など阿波おどりの各役割を知り、基本的な踊り方を習得する。	アウトリーチ実施校数(校)					市内小・中学生を対象に、阿波おどり育成出前講座を実施し、阿波おどりについての座学や体験を通じて将来の伝統文化を継承する担い手づくりに取り組んだ。
			16 (一)	13 (一)	(16)			今後、本市が世界に誇る徳島の伝統芸能である阿波おどりを継承していくため、多くの小・中学校に積極的にアウトリーチしていく。
5	SOGIE啓発推進事業 【人権推進課】	「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」施行等を受け、差別や偏見を解消するため、電話相談及びSNS運用等による啓発を行う。	性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する理解の増進					臨床心理士や公認心理師など専門資格を持った経験豊富なカウンセラーによる電話相談を行うとともに、SNSを運用し、イベントの告知や啓発活動を行った。
			啓発の 実施 (一)	啓発の 実施 (一)	(実施)			電話相談の充実を行うとともに、SNS等を運用し啓発活動を行う。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

2つのX(GX・DX)とイノベーション創出による徳島経済飛躍事業【地方創生推進タイプ】

事業概要
県と連携して、事業者へのデジタル技術を活用した販路開拓支援等に取り組む。 ・GX・DXによる本県企業の競争力強化 ・海外展開の促進によるグローバル市場の獲得 ・イノベーションの創出による地域活性化

事業計画期間	令和4年度～令和8年度
R6交付対象事業費	10,331千円
R6交付額	5,165千円
総合戦略の基本目標	基本目標2

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R4	R5	R6	R7	R8	KPIの達成状況・要因分析
「販路拡大に効果があった」と回答した事業者の割合(%) 【経済政策課】	92 R2	100 (90)	100 (90)	91 (90)	(90)	(90)	令和6年度より数値は下がったものの、目標達成できた。 「効果がない」と回答した者も、商談を行ったが販売に至るまでの進捗状況ではないものの、令和7年度以降も本補助金制度を活用したいとの意向であり、事業として一定の効果はあったと考えられる。
本事業による支援件数(件) 【経済政策課】 ※令和7年度以降の目標値は、総合計画2025で定めた目標値	—	45 (66)	58 (102)	74 (138)	(87)	(100)	E C 参入支援件数は16件で、昨年度支援件数(13件)より増加したが、目標値を下回っている。本補助金は、新型コロナウイルス感染症の影響で対面販売が困難になった事業者等の新たな販路開拓支援を目的として目標値を設定していたが、新型コロナウイルス感染症の5類移行など社会情勢が変化したことや一定程度E C 参入が進んだことなどが要因と考えられる。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

構成事業一覧

No.	事業名	事業概要	事業目標					R6具体的な取組内容
			R4	R5	R6	R7	R8	R6事業目標の達成状況及び要因、今後の方向性
1	中小企業経営支援事業 【経済政策課】	中小企業等の成長を促し、経営力強化を図るため、中小企業等が行う販路拡大、E C 参入及びDX促進などの取り組みを支援する。	「事業効果があった」と回答した事業者の割合(%)					販路拡大による売上拡大等の事業者の取組みに対して、自立的に利益の最大化を図るように支援を行った。
			100 (—)	100 (—)	91 (—)	(100)	(100)	令和6年度は前年度より数値は下がったものの、目標達成できた。 「効果がなかった」と回答した者も、当初想定していた進捗状況ではなかったが令和7年度以降も本補助金制度を活用したいとの意向であり、事業として一定の効果はあったと考えられる。 今後も、より事業効果が見込めるよう取り組む。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

3つの徳島県・地域連携DMOが協働する観光振興プログラム【地方創生推進タイプ】

事業概要
県等と連携して、本市の魅力発信やプロモーション等に取り組む。 ・県民が本県魅力を国内外へ発信することにより、多くの観光客が訪れ、観光産業が活性化され、雇用の創出や地域経済の活性化を促進する ・県産品や豊かな食を、観光と一体となって国内外に売り込み、「徳島ファン」の増加を図る ・四国の玄関口に位置する利点を活かした関西からの旅行訪問者の増加を図る

事業計画期間	令和4年度～令和8年度
R6交付対象事業費	997千円
R6交付額	498千円
総合戦略の基本目標	基本目標2

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R4	R5	R6	R7	R8	KPIの達成状況・要因分析
徳島市公式観光ウェブサイトページビュー数(万件) 【にぎわい交流課】	18.7 R2	48.1 (30)	69.4 (50)	74.1 (55)	(80)	(85)	徳島市公式観光ウェブサイトにおいて体験型特集記事の充実させるとともに、県外での観光キャンペーンを実施し、本市の観光資源をPRしたことで、サイトへのアクセス件数が増加した。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

構成事業一覧

No.	事業名	事業概要	事業目標					R6具体的な取組内容
			R4	R5	R6	R7	R8	R6事業目標の達成状況及び要因、今後の方向性
1	水都とくしま魅力発信事業	徳島市の認知度向上や来訪意識の喚起を図るため、徳島市公式観光サイトを活用し、さまざまな観光資源の魅力を国内外に向け広く発信する。また徳島市イメージアップキャラクター「トクシィ」を活用したSNS等の情報発信を行い、認知度向上を図る。	徳島市公式観光サイト インスタグラムフォロワー数(人)					徳島市公式観光サイト「Fun!Fun!とくしま」において、徳島市の観光資源の魅力を積極的に周知するとともに、徳島市ならではの体験などを紹介した。また、イメージキャラクター「トクシィ」を活用し、SNS等での情報発信や観光PRブース等で観光客誘致に向けた取組を行った。
			— (—)	2,886 (—)	5,217 (—)	(3,000)	(3,100)	今後も、積極的にHPやSNS等を積極的に活用し、本市の観光資源の魅力を国内外に広く発信していく。大阪・関西万博の開催やインバウンドの観光需要を契機に、さらに本市への来訪意識の喚起を図る。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

「グリーン社会とくしま」の実現によるサステナブルな地域づくり推進事業【地方創生推進タイプ】

事業概要
県等と連携して、SDGs実現の重点地域として、脱炭素等に向けた積極的な情報発信等を行う。 ・気候変動対策や脱炭素社会の推進に向けた普及啓発等を図る ・環境先進県としての取組に賛同する企業や人材等の集積・移住交流を推進を図る ・次世代の「グリーン社会」を担うGX人材の育成を図る

事業計画期間	令和4年度～令和8年度
R6交付対象事業費	206千円
R6交付額	103千円
総合戦略の基本目標	基本目標1

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R4	R5	R6	R7	R8	KPIの達成状況・要因分析
市民のSDGs認知度(%) 【企画政策課】	—	— (調査準備)	66.4 (69)	69.5 (70)	(71)	(72)	目標達成はできなかったが、体験型イベント「SDGsこども未来チャレンジ」やアミコビルやボードウォークでの懸垂幕やフラッグの設置などの啓発事業により、昨年度より数値は上昇しており、引き続き徳島市SDGs公民連携プラットフォームを通じて情報発信等を行うことで、市民のSDGs認知度向上を図る。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

構成事業一覧

No.	事業名	事業概要	事業目標					R6具体的な取組内容
			R 4	R 5	R 6	R 7	R 8	R6事業目標の達成状況及び要因、今後の方向性
1	SDGs推進事業①（SDGsの普及啓発） 【企画政策課】	連携協定によるパートナーシップ（公民連携）を拡大するとともに、徳島市SDGs公民連携プラットフォームを通じて情報発信を積極的に行うことで、SDGsの普及啓発を図る。	①包括連携協定による連携事業数(事業)					令和6年度は新たに2社と包括連携協定を締結し、パートナーシップを拡大した。また、子どもを対象にしたSDGs体験イベントやアミコビルやボードウォークでの懸垂幕やフラッグの設置など、情報発信を積極的に行った。
			133 (一)	165 (120)	151 (150)	(170)	(175)	
			②経済・社会・環境の三側面に好循環をもたらす 公民連携モデル事業の実施件数(件)					包括連携協定による連携事業数の目標は達成したものの、公民連携モデル事業の実施件数は、当初想定したひょうたん島周遊船の電動化事業が次年度に持ち越されたため目標達成できなかった。 引き続きパートナーシップによる連携事業を増やすとともに、ひょうたん島周遊船の電動化などの先駆的な取組を徳島市SDGs公民連携プラットフォームを通じて全国的にプロモーションすることで、さらなるSDGsの普及啓発に努める。
			－ (一)	1 (1)	1 (2)	(4)	(5)	
			③市民のSDGs認知度(%)					
－ (一)	66.4 (69)	69.5 (70)	(71)	(72)				
2	SDGs推進事業②（ひょうたん島周遊船の電動化）	ひょうたん島周遊船を電動化し、船舶分野における脱炭素化モデルを構築することで、「SDGs未来都市・徳島市」の取組を全国的にプロモーションするとともに、将来像「おどる街つながる笑顔水都とくしま」の実現に向けて、水辺の魅力アップを図る。	電動化した周遊船数(艇)					令和6年11月にひょうたん島周遊船の電動化に向けた試乗会を実施した。試乗会では市民のニーズを調査するためのアンケートを実施し、導入後の活用方法について検討するなど、次年度以降の準備を行った。
			－ (一)	－ (一)	－ (一)	(1)	(1)	令和7年度中にひょうたん島周遊船を電動化し、本格運航を実施予定である。イベントなどでPRを行い、多くの方に乗船してもらうことで、SDGsの普及啓発に努める。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

社会・経済状況の変化に適應する「とくしま農林水産業」生産力強化戦略【地方創生推進タイプ】

事業概要
県等と連携して、農林漁業者の6次産業化による商品開発及び販路開拓支援に取り組む。 ・広域的な産地間連携等による園芸産地の再編・強化や、先端技術を活用した超省力化・高品質生産の実装等による生産性の向上 ・気候変動に適應した新品種・新技術の開発・普及 ・状況の変化に対応した新たな販売戦略の構築

事業計画期間	令和3年度～令和7年度
R6交付対象事業費	1,000千円
R6交付額	500千円
総合戦略の基本目標	基本目標2

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R3	R4	R5	R6	R7	KPIの達成状況・要因分析
本事業により開発した商品数(件) ※累計【農林水産課】	9 R2	10 (10)	11 (11)	12 (12)	13 (13)	(14)	本事業により新たに1件の商品開発を行い、累計13件となり目標を達成した。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

構成事業一覧

No.	事業名	事業概要	事業目標					R6具体的な取組内容
			R3	R4	R5	R6	R7	R6事業目標の達成状況及び要因、今後の方向性
1	農商工連携等事業	6次産業化に意欲ある生産者や商工業者等への支援を行い、地域資源を活用した高付加価値商品の開発・販路開拓を支援することにより、地域資源を軸とした地域産業の活性化を目指す。	農商工連携により開発した商品数(商品)※累計					地域資源であるタデ藍の茎の部分をアップサイクル素材として藍茎和紙を作り、壁紙と御朱印帳を商品化した。
			10 (10)	11 (11)	12 (12)	13 (13)	(14)	従来は商品開発＝食品という傾向であったが、令和6年度は和紙という食品以外の分野において商品開発を行った。伝統工芸×サステイナブルの融合を実現し、新たな価値の実現となった。今後も農林漁業者と県等と連携して地域産業の活性化を目指す。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

LINEによる行政サービス拡張事業【デジタル実装タイプ】

事業概要
LINE公式アカウントの機能を拡張し、市政情報のセグメント配信機能及びFAQチャットポット機能を導入するとともに、災害情報の即時通知などの防災機能を強化する。

事業計画期間	令和5年度～令和7年度
R6事業費	1,030千円
R6交付額	交付金は初年度(R5)のみ
総合戦略の基本目標	—

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R5	R6	R7			KPIの達成状況・要因分析
公式アカウントおともだち数(人) 【広報広聴課】	19,928	21,995 (21,000)	23,919 (22,000)	(23,000)			広報紙やホームページ、SNS、ポスター掲示やチラシの配布等で積極的に広報活動を行った。また、セグメント配信等の機能拡張が、ともだち数の増加につながったと考えられる。
セグメント配信の回数(回/月) 【広報広聴課】	0	17 (20)	41 (25)	(30)			月間の配信計画をたて、市政情報・イベント情報等を積極的に配信した。
チャットボット利用回数(回) 【広報広聴課】	0	8,108 (10)	15,998 (15)	(20)			市民からの問い合わせが多い「マイナンバー」「引っ越し」「健康」情報を手軽に調べることができるチャットボット機能により、利用者の利便性の向上と職員の負担軽減につなげた。
災害情報配信回数(回/年) 【危機管理課】	0	8 (10)	5 (12)	(14)			南海トラフ地震臨時情報の発表による配信を行ったものの、徳島市に影響を及ぼす風水害が少なかったことから、全体として配信回数は減少した。
市民からの災害情報投稿回数(回/年) 【危機管理課】	0	0 (4)	0 (5)	(6)			他のSNSを試験運用した結果から、情報量や正誤判断の課題を踏まえ、実装の必要性が低いと判断したため、市民からの災害情報投稿機能は実装していない。
徳島市公式LINEアカウントの満足度(ポイント(10段階評価))【広報広聴課】	—	6.1 (5.0)	5.8 (5.5)	(6.0)			セグメント配信等の機能拡張したサービスを中心に積極的に情報発信した。今後も引き続き利用者満足度の向上に努める。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

令和6年度の具体的な取組内容、地域への効果
市政情報やイベント情報などの具体的な配信スケジュールをたて、計画的に配信。画像やイラストを多用し、利用者の目を引く配信を心掛けた。また、利用者アンケートの結果(適切な配信時間帯や配信頻度、受け取りたい情報等の回答結果)を踏まえた配信を心掛けた。

今後の方向性・見直し内容
今後、LINE公式アカウントをより一層PRし、友だち数を増やしていくと同時に、本市の取り組みに興味を持ってもらえるよう積極的に本市の魅力を配信していく。また、これまでのサービスに加え、新たな機能の拡充を検討し、利用者にとっての利便性の向上を図る。

スマート農業推進支援事業【デジタル実装タイプ】

事業概要
スマート農業機器の貸出しによる効果確認や研修会を実施し、農業分野における「先端技術」実装に対する機運の構成を図り、農業現場の労働力確保や負担軽減などの課題を解消する。

事業計画期間	令和5年度～令和7年度
R6事業費	239千円
R6交付額	交付金は初年度(R5)のみ
総合戦略の基本目標	—

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R5	R6	R7		KPIの達成状況・要因分析
機器の貸出件数(件) 【農林水産課】	0	4 (10)	17 (15)	(20)		広報とくしまや研修会などで周知を行った結果、スマート機器への関心が高まっていると思われ、目標以上の貸出件数を達成した。
研修会参加者数(人) 【農林水産課】	0	15 (20)	27 (25)	(30)		市内の農業者に対し、農業士会や徳島県農業支援センターにより、研修会開催の案内を行った。その結果、研修会参加者数も前年よりも大きく増加した。
貸出機器利用者の満足度(ポイント【5段階評価】) 【農林水産課】	—	2.5 (3.0)	3.6 (3.5)	(4.0)		貸出機器利用者へのアンケートを実施し、5段階評価してもらった。広報とくしまや、研修会などで周知を行ったことで、スマート機器への理解度が高まったことにより、前年度より満足度は高くなった。
研修会参加者の満足度(ポイント【5段階評価】) 【農林水産課】	—	3.2 (3.0)	4.0 (3.5)	(4.0)		研修会後に行ったアンケートにより、設問：スマート農業機器の興味・関心について、「導入検討したい」と回答した人数の割合を満足度として設定。事例紹介や農業経営に役立つ内容など、導入後のイメージがしやすい内容に工夫したことにより、前年度より満足度は高くなった。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

令和6年度の具体的な取組内容、地域への効果
令和6年度は市内の農業従事者に対して、農業士会や徳島農業支援センターにより研修会の開催の案内を行い、27人の参加があった。研修会では「農業経営に役に立つスマート農業とは？」のテーマにより講演を行い、スマート農業の必要性や展望、生産者の今後についての説明があった。また、比較的低コストで使用できるAIアプリを活用した農業経営の紹介もあった。 その結果、17件の貸出があり、利用者へのアンケートの結果では、「スマート農業機器を導入したい」や「レンタルしたい」など、実際にスマート農業機器の導入を前向きに検討する効果があった。

今後の方向性・見直し内容
利用者へのアンケートの結果では、「スマート農業機器を導入したい」、「レンタルしたい」と前向きな回答がある一方で、「購入価格やレンタル料が高い」や「費用対効果が不透明」など、費用や効率の課題、「そもそもスマート農業とは何か分かりにくい」など、周知が不足している声もあがっている。 今後、実際に体験してもらう機会を作るなど、スマート農業機器のメリットを広く知ってもらい、農業現場での労働力確保や負担軽減など、課題の解消につなげる。

「書かない窓口」申請書作成サービス【デジタル実装タイプ】

事業概要
窓口DXを段階的に進めるにあたり、そのスタートアップとして、市民等の窓口での請求書等の記入の負担軽減につながるシステムとして、「書かない窓口」に係る申請書作成システム機器を市役所1階住民課窓口を設置することで、本市のマイナンバーカード利用シーンの拡大によるPR効果及び窓口DXを図る。

事業計画期間	令和6年度～令和8年度
R6交付対象事業費	3,118千円
R6交付額	1,559千円
総合戦略の基本目標	—

KPI(重要業績評価指標)の進捗状況

成果指標名	事業開始前	R6	R7	R8		KPIの達成状況・要因分析
申請書作成サービス利用者数(人) 【住民課】	—	1,539 (14,500)	(29,000)	(45,000)		仕様の検討に想定よりも日数を要し、契約時期が遅れたことに伴い、運用の開始が当初の予定の6月から12月に遅れたため、利用期間が6カ月短くなり、利用者数も伸びなかった。
出力帳票数(枚) 【住民課】	—	1,277 (19,500)	(39,000)	(60,000)		運用の開始が当初の予定よりも6カ月遅れたため、出力帳票の枚数も影響を受けた。また、利用者の操作時のタイムアウトや確認画面でのキャンセル操作等で印刷されなかった帳票も多少あり、成果の達成ができなかった。
サービスの満足度(ポイント) 【住民課】	—	3.5 (3.0)	(3.3)	(3.6)		システム機器周辺設置の案内チラシにアンケート調査のQRコードを掲載しているが、回答が21件と少なかった。 今年度は窓口サービスをテーマにインターネットアンケートが予定されているため、本システムのアンケートを追加する。
利用者の負担感の軽減(時間) 【住民課】	—	32 (225)	(300)	(375)		通常の記入と比べて1枚あたり平均で約1.5分の時間が短縮できた。 印刷合計 1,277(枚)×1.5分/60分=31.9(時間) 利用期間が短く、印刷枚数も伸びなかったため、結果的に軽減時間も評価指標を下回ってしまった。

※上段は実績値、下段(カッコ内)は目標値

令和6年度の具体的な取組内容、地域への効果
当初は6月から運用開始予定であったが、各種機器の実証テストや仕様検討等に時間をかけたため、半年遅れて12月から実装した。1月には広報とくしまやSNSの掲載、報道機関への情報提供等も利用して市民への周知を図り、500人/月の利用があった。 稼働中はQRコードによるアンケートも実施し、「操作が簡単であった」「記入が減り楽だった」「早く手続きができた」などのご意見をいただき、一方で「記入するところがあり全く書かなくてよい訳ではない」「発行できる書類を増やしてほしい」とのご意見もいただいた。 マイナンバーカードの電子証明更新等の受付の増加を受けて、新たに利用可能な様式を追加し、サービスの向上に寄与した。また、漢字に慣れていない外国人の方や、手書きでの記載に苦労する高齢者への窓口サービスの向上にも貢献することができた。

今後の方向性・見直し内容
本システム機器は職員がカスタマイズ可能なシステムであるため、既存の健康保険証廃止の影響により急増するマイナンバーカードの交付申請や電子証明書の更新など、窓口の実状に合わせて、例えば現在の3台の機器のうち、マイナンバーカード関連手続き用の機器を1台から2台に変更するなど、「帳票の追加」や「利用帳票の項目見直し」等について、できるだけ経費をかけず、より効果的にサービスを拡充できるように運用していきたい。 また、KPI達成を目指して、広報誌やHP等による周知、アンケートの実施のほか、マニュアルの設置とは別に、「利用手順」等を繰り返し映像で流すタブレットを配置するなど、高齢者でも利用しやすくなるような方法を検討していきたい。